

さて、イタリアでは、'92年から移民に対する法律の見直し案が上がっている。両親が外国人であろうとも、イタリアに生まれる子供には国籍を与えようとする法案である。しかし、国政の混乱、次々と入れ替わる政府により後回しとなり、なかなか現実とならない。

そこで立ち上がったのが、地方行政、つまり各地のコムーネである。イタリアに生まれた子供たちを「名誉市民 *cittadinanza onoraria*」として表彰する、という現象が、近年、南北問わずイタリア全国の多くのコムーネにおいて巻き起こってきている。その意図は、国がイタリア国民として認めないであろうとも、私たち地元の市町村は、この国に生まれた君たちを我々のひとりとして認める、というものである。法的な効力は持たず、シンボリックなものに過ぎないが、その価値を認めるヒューマンな意思表示といえるであろう。

これは、子供の権利を保護するイタリアのユニセフの活動とも大いに結びついている。イタリアに生まれたのであるから、イタリアの国籍を獲得するのは、子供の権利のひとつである、というわけだ。実際には、各コムーネのセンシビリティによるところが大きく、残念ながら、マッサ・マリッティマではまだ行われていない。子供たちへの名誉市民の表彰を行ったコムーネのいくつかを例に挙げると、県内だけでも、Grosseto, Follonica, Roccastrada, Gavorrano, Scansano, Orbetello, Pitigliano, Sovana, Sorano 等、枚挙にいとまがない。一覧のリストが存在しないので、ひとつひとつ拾い上げるしかないが、グロッセート県以外のトスカーナ州内でも多くのコムーネで実施された。

下は、サンタ・クローチェ・スラルノ(ピサ県)とルッカでの表彰式の様子である。トスカーナ州の公式情報サイトによれば、2013年5月、州知事エンリコ・ロッシ氏は、サンタ・クローチェ・スラルノでの表彰式の際に、次のように述べている。「イタリアで生まれ、我々の州に住む外国人の両親を持つ子供が6万人もいる。この子供らを無視することは、シエナのような大きな都市にも匹敵するものを消し去るようなものである。」“In Toscana ci sono 60 mila ragazzi e ragazze, figli di genitori stranieri, che sono nati in Italia e che vivono nella nostra regione. Far finta che non esistano è come voler cancellare, in questa regione, una città grande come Siena. Solo un matto potrebbe continuare all'infinito a chiudere gli occhi su una realtà come questa.”

Il presidente della Toscana Enrico Rossi, Cittadinanza onoraria Santa Croce sull'Arno 24 maggio 2013



図 3-26 外国人の子どもたちへの名誉市民表彰式の様子(左)サンタ・クローチェ・スラルノ (右)ルッカ

※出典:(左)トスカーナ州公式情報サイト Toscana Notizie, 24 maggio 2013 (右)地方新聞 IL Tirreno- Edizione Lucca, 05 ottobre 2013

第四章: 都市のレスタウロ(修復)と公共事業

マッサ・マリッティマでは、近年に、多くの歴史的文化的遺産 *monumenti storici* が修復され、都市がみるみる生き返ってきている。イタリア全国的にみても、トスカーナ州には文化遺産が非常に多く、もっとも興味深い州のひとつである。近年には州としても文化への投資に積極的な様子が伺えるが、具体的な都市再生の例として、マッサ・マリッティマを見ていくのは非常に興味深いと思われる。

4-1 公共事業にかけられる予算

2014年5月に、市立図書館の再オープンの機会にあわせて、近年の公共事業についてのプレゼンテーションが行われた。この地方の日刊デジタル新聞“*Il Giunco*”は、“*La Toscana e la cultura: l'esperienza di Massa Marittima (トスカーナ州と文化、マッサ・マリッティマの経験)*”と報じている。

コムーネが近年生まれ変わってきていることは住民も気づいてはいるが、それがどのような人々によって、どのようなかたちで実行されてきたのかをおおげに示す、非常にポジティブな報告会であったと思う。そして、市民に対して、彼らが納める税金がどのように使われたのか、ということを示すと同時に、トスカーナ州からの代表者もやってきて、州の資金が正当なかたちで運用されたということを証明する意味をも持っていた。



図 4-1 市立図書館の再オープンに際してのイベントプログラム